

授業科目名	おもてなし学・グローバルマナー概論～スポーツボランティアを展望して～		
科目番号	1210221	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	春 AB 月 1
担当教員	江上 いずみ		
授業概要	<p>・国際人として、自国の文化と歴史、礼儀作法の成り立ちを理解し、正しく伝えられる知識を身に付ける</p> <p>・また諸外国の習慣やマナーを尊重して、異文化コミュニケーションの原点を理解する</p> <p>・言語や宗教、文化や歴史が違えばマナーもまた国によって異なるのは当然である、という認識のもと、互いの習慣やしきたりの違いを尊重しあって基本となるプロトコルの原則を心得る</p> <p>・2020年東京大会に向けて開催国日本のボランティアとして必要なグローバルマナーを学ぶ</p>		
備考	(体育開設) 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	<p>3</p> <p>・国際人として、自国の文化と歴史、礼儀作法の成り立ちを理解し、正しく伝えられる知識を身に付ける</p> <p>・また諸外国の習慣やマナーを尊重して、異文化コミュニケーションの原点を理解する</p> <p>・言語や宗教、文化や歴史が違えばマナーもまた国によって異なるのは当然である、という認識のもと、互いの習慣やしきたりの違いを尊重しあって基本となるプロトコルの原則を心得る</p> <p>・2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、開催国日本のホスト役として如何に行動すべきか、誇りあるグローバルマナーを学ぶ</p> <p>・上記の学習を通してスポーツボランティアの素養を身につける</p>		
到達目標	国際人として必要なマナースキルを学び、相手の文化や習慣を尊重しつつ臨機応変な対応ができる判断力とスポーツボランティアの素養を身につける		
キーワード	異文化理解, マナー, ボランティア, オリンピック		
各回授業計画	<p>一方的な講義ではなく、できる限り参加型の授業を進めていく。パワーポイントによる講義形式を主とするが、ロールプレイを通してすぐに役立つグローバルマナーを身に付ける。</p> <p>第1回【4月18日 江上いずみ、真田久 体育系】 [日本の文化「おもてなしの心」] グローバルマナー入門 1 エチケットとマナー、礼儀と作法の違い 2 グローバルマナーとは 3 「おもてなし」を英語でどう表現されているか 4 マナーの時代的背景と歴史 (日本のマナーと西洋のマナーの成り立ち)</p> <hr/> <p>第2回【4月25日 江上いずみ】 [好印象のコミュニケーション (1)] 第一印象の構成要素 ～グローバルマナーと好感度を高める 5 原則～</p> <hr/> <p>第3回【5月9日 江上いずみ】 [好印象のコミュニケーション (2)] より良い自己表現力 ～コミュニケーション能力を高める「聞き方」と「話し方」～</p> <hr/> <p>第4回【5月16日 江上いずみ】 [好印象のコミュニケーション (3)] プロトコル (外交儀礼) を知る ～グローバルマナーと「プロトコルの 5 原則」～</p> <hr/> <p>第5回【5月23日 江上いずみ】 [日本の文化としきたり (1)] 「冠」と「婚」のしきたりとマナー ～日本の通過儀礼と時代の変遷、宗教による違いを知る～</p> <hr/> <p>第6回【5月30日 江上いずみ】 [日本の文化としきたり (2)] 「葬」と「祭」のしきたりとマナー ～日本における年中行事の由来と変遷～</p>		

	<p>第7回【6月6日 江上いずみ】 [グローバルマナー (1)] スポーツボランティアの現状と課題 ~2012 ロンドン大会の「ゲームズメーカー」から学ぶ~</p> <hr/> <p>第8回【6月13日 江上いずみ】 [グローバルマナー (2)] 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて ~自国の食文化を知る(美しい箸使いと和室での立ち居振る舞い)~</p> <hr/> <p>第9回【6月20日 江上いずみ】 [グローバルマナー (3)] 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて ~開催国ホスト役としてのボランティア精神とおもてなしを学ぶ~</p> <hr/> <p>第10回【6月27日 江上いずみ】 [グローバルマナー (4)] 2020年東京大会以降のグローバルマナーとボランティア ~「おもてなし大国 日本」のあり方と今後の課題~</p> <hr/> <p>第11回【7月4日】 期末試験</p>
履修条件	なし
成績評価方法	出席(マナーを学ぶ学生としての授業態度); 50% 事前研究とプレゼンテーション(1回); 20% 期末テスト; 30% 原則、全回出席を単位認定要件とする
授業外における学習方法	学修したグローバルマナーをスポーツイベントや日常の中で実践してみよう。
教材・参考文献	江上いずみ『幸せマナーとおもてなしの基本』(海竜社)をテキストとして使用する。
オフィスアワー・連絡先	オフィスアワーは特に定めない。江上いずみ:izumiegami@outlook.jp
履修者へのメッセージ	就職活動におけるマナー、立食パーティにおける立ち居振る舞いなど、学生にとってもすぐに役立つ内容ばかりなので、頭と身体を使って積極的に授業に参加してください。 2020年の東京オリンピック・パラリンピックに生かせるグローバルマナーをスポーツボランティアの素養として身に付けましょう。

授業科目名	セルフ・ヘルス・ケア		
科目番号	1222011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	春 AB 月 2
担当教員	森 千鶴, 古谷 佳由理, 岡田 佳詠, 日高 紀久江, 笹原 朋代		
授業概要	<p>本科目は、人々の健康を考慮することが目的である。看護学の各領域の専門家がそれぞれの立場から、健康の概念や、人々が健康な生活を送るための社会資源のあり方について学習する。また、人々が健康な生活を送るためには、一人一人のセルフケア能力を高めることが大切であり、そのための具体的な方法について学習する。</p>		
備考	<p>(看護開設) 看護学類以外の学生を優先する 【受入上限数 120 名】</p>		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	<p>1 本科目は、人々の健康を考慮することが目的である。看護学の各領域の専門家がそれぞれの立場から、健康の概念や、人々が健康な生活を送るための社会資源のあり方について学習する。また、人々が健康な生活を送るためには、一人一人のセルフケア能力を高めることが大切であり、そのための具体的な方法について学習する。</p>		
到達目標	<p>1. 自らの健康に関する考えを記述できる 2. 自らの健康を維持増進させる具体的方法を記述できる 3. 我が国の健康問題に関心を持ち、人々の健康のために自らが貢献できる事柄を見いだすことができる</p>		
キーワード	健康生活・セルフケア・健康の概念		
各回授業計画	<p>第 1 回【4 月 18 日 森 千鶴 医学医療系】 [アルコールとのつきあい方]</p> <hr/> <p>第 2 回【4 月 25 日 古谷 佳由理 医学医療系】 [子どもの権利について考える]</p> <hr/> <p>第 3 回【5 月 9 日 古谷 佳由理 医学医療系】 [疾患をもつ子どもと家族の健康を考える]</p> <hr/> <p>第 4 回【5 月 16 日 岡田佳詠 医学医療系】 [心の健康を考える]</p> <hr/> <p>第 5 回【5 月 23 日 岡田佳詠 医学医療系】 [心の健康を考える]</p> <hr/> <p>第 6 回【5 月 30 日 日高紀久江 医学医療系】 [身を守るためのセルフケア]</p> <hr/> <p>第 7 回【6 月 6 日 日高紀久江 医学医療系】 [身を守るためのセルフケア]</p> <hr/> <p>第 8 回【6 月 13 日 笹原朋代 医学医療系】 [がんを予防するために]</p> <hr/> <p>第 9 回【6 月 20 日 笹原朋代 医学医療系】 [がんを予防するために]</p> <hr/> <p>第 10 回【6 月 27 日 古谷佳由理 医学医療系】 [疾患をもつ子どもと家族の健康を考える]</p> <hr/> <p>第 11 回【7 月 4 日】 期末試験</p>		
履修条件	看護学類以外の学生を優先する		
成績評価方法	出席状況ならびに随時求めるレポート内容による(課題はその都度提示する)		
授業外における学習方法	関連知識、関連の情報収集に努める		
教材・参考文献	随時、紹介する		
オフィスアワー・連絡先	<p>オフィスアワー:随時(事前にメールで連絡下さい) 連絡先:TEL 8062 e-mail:mori@md.tsukuba.ac.jp</p>		
履修者へのメッセージ	興味、関心を持って主体的に学んで下さい		

授業科目名	心と体に安全で快適なキャンパス I-こころのウェルネス実践講座-充実した学生生活を送るために		
科目番号	1226021	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	春 AB 月 5
担当教員	太刀川 弘和		
授業概要	この授業では、充実した学生生活が送れるように、大学生が学生生活の中で出会う様々な問題を取り上げながら、それに対処するための知識とスキルについて学習することを目的としています。具体的には、大学生が抱える様々なこころの問題や病気を、身近な事例や文学、映画、社会現象などを通じて心理学と精神医学を基に学習し理解を図るとともに、実際のスキルトレーニングなども行っていく予定です。		
備考	(保健管理センター企画) 【受入上限数 200 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	1,3 この授業では、これから始まる大学生活が充実したものになるように、大学生が出会う様々な問題を取り上げながら、それに対処するための知識とスキルについて学習することを目的とする。特に、大学生が抱えやすいこころの問題や病気を、文学、映画、音楽、社会現象などを通して心理学と精神医学をもとに学習する。さらに実際のスキルトレーニングも行い、コミュニケーションと人間関係の形成に役立つスキルや、困難な状況になっても対処していける方法を紹介する実践的な講座を展開する。		
到達目標	大学生活で生じる様々な心理発達の課題やメンタルヘルス上の問題について正しい知識を身につけ、困難な状況への対処法について学び、実践できるようにする。これを発展させることで自律的な自己を確立して豊かな人間関係を形成し、互いに成長し、助け合える力を育むことを目指す。		
キーワード	メンタルヘルス, 心理学, 精神医学, 心理的発達, コミュニケーション, リラクゼーション, ストレス対処法		
各回授業計画	<p>第1回【4月18日 杉江征 保健管理センター 人間系】 [大学生生活入門] 大学生の時期の心理的発達と生活や学習環境の変化について学び、これから始まる大学生生活のイメージを作る。</p> <hr/> <p>第2回【4月25日 坂本憲治 保健管理センター 人間系】 [コミュニケーションにおける私を知ろう] 他者と会話するとき相手にどのような印象を与えているのか、自己理解を深めるためのコミュニケーションワークを行う。</p> <hr/> <p>第3回【5月9日 石井映美 保健管理センター 医学医療系】 [こころの病とアートの関係] こころの病が影響を与えた芸術と、こころの病に対する芸術の効用について学ぶ。</p> <hr/> <p>第4回【5月16日 石井映美 保健管理センター 医学医療系】 [音楽にみるこころの病] 作曲家、演奏者などの音楽家の作品をたどり、その背景にあるこころの病を考える。シューマン、チャイコフスキー、カレン・カーペンターなど。</p> <hr/> <p>第5回【5月23日 松崎朝樹 臨床医学域精神医学 医学医療系】 [こころの病を癒す活動] 農業や運動といった、こころの病を癒す様々な心理社会的なアプローチについて学ぶ。</p> <hr/> <p>第6回【5月30日 坂本憲治 保健管理センター 人間系】 [私を支えるひと・もの・こと-私をとりまくネットワーク-] 自分の生活を支える家族や友人などの人、お気に入りのもの、大切な事柄をふりかえり、自分をとりまく関係性をふりかえる。</p> <hr/> <p>第7回【6月6日 太刀川弘和 保健管理センター 医学医療系】 [現代社会とメンタルヘルス 1-ドラッグ・セックス・アディクション-] 社会に蔓延る薬物乱用の実態と、背後にある依存・嗜癖・欲望の心理機制を、ロックのリズムに合わせて学習する。</p> <hr/> <p>第8回【6月13日 中岡千幸 保健管理センター 人間系】 [ソーシャルサポートの授受] 大学生活の中でソーシャルサポートが役立つ場面を考えながら、サポートの受領と提供のコツを学習する。</p>		

	<p>第9回【6月20日 太刀川弘和 保健管理センター 医学医療系】 [現代社会とメンタルヘルス 2-自傷と自殺、その予防-] 社会を悩ます自傷・自殺問題を概観し、私たち一人一人に何ができるかまで含めて、予防対策を学習する。</p> <hr/> <p>第10回【6月27日 杉江征 保健管理センター 人間系】 [ピンチはチャンス!上手なストレス対処法 -ストレス・マネージメント-] 健康なこころの状態とは?ストレスを感じたときの対処法や困ったときに利用できるリソースについて学習する。</p> <hr/> <p>第11回【7月4日 期末試験】 レポート提出</p>
履修条件	秋学期の「心と体に安全で快適なキャンパス II-救命救急処置とファーストエイド」を合わせて履修するのがお勧め。
成績評価方法	出席 50 点満点、レポート 50 点満点として評価する。
授業外における学習方法	行事 (宿舍祭、スポーツデー、学園祭など) や課外活動 (サークル、T-ACT など) に参加する。
教材・参考文献	授業で随時紹介する。
オフィスアワー・連絡先	火曜日午後、保健管理センター 内線 2415 tachikawa@md.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	本を読み、映画を観て、音楽を聴く。人と話し、恋をして、旅に出る。

授業科目名	みんなで創ろう「つくばアクションプロジェクト」		
科目番号	1226041	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	春 AB 月 6
担当教員	田中 博		
授業概要	自分の興味や関心を活かし、自らが主体的に関わりたいと思える活動を企画し、それを実現化するための方法について学ぶことを目的としている。そのため、講義の他にワークシートを用いた演習やグループワークなども行い、よりよい人間関係の構築もこの講義の狙いとなる。この授業を通して、皆さんの学生生活をより実り多きものにしていただきたい。		
備考	(学生生活支援室企画) 秋学期 (1226091) と同一内容のため、重複履修は不可。 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	1,3 「大学生活をどのように過ごすか」。答えはもう見つかりましたか?学問、サークル、ボランティア、アルバイトなど様々な答えがあるでしょう。しかし、大学内では行われていない活動で参加したいことがある人や、漠然としているけれど「こんなことをしてみたい」という、アイデアを密かにお持ちの人も多いのではないのでしょうか。 この授業では、自分の興味や関心を活かし、自らが主体的に関わりたいと思えるような活動を企画し、それを実現させるための方法について学ぶことを目的としています。そのため、講義の他に、演習やグループワークを行います。自分一人では実現困難と思われるアイデアでも、他の学群や学類の人たちと話す中で新たな可能性が見つかるでしょう。 なお、つくばアクションプロジェクト (T-ACT) とは、平成 20 年度から本格的に始動している、学生の皆さんの様々な自発的活動に応えるための、筑波大学独自のプロジェクトです。この授業で考案された企画は、T-ACT として、他の学生や教職員と一緒に実現していくことができます。活動の内容は学問的なものだけではなく、日々の生活に密接に関係した内容やボランティア活動まで、様々な内容を想定しています。		
到達目標	より豊かな学生生活とするために、自分と向き合うこと、学類・学群を超えた幅広い人間関係の構築を図ります。また、新しい活動に対する積極的な参加力や体験力、協調して活動をするためのコミュニケーション力、人に働きかけて統率する力、自らの考えを活動として実現する企画力などを培うことを目標としています。		
キーワード	自発的活動、参加力・体験力・コミュニケーション力・統率力・企画力		
各回授業計画	<p>第 1 回【4 月 18 日 田中 博 生命環境系 ほか】 [オリエンテーション] T-ACT プログラムの全体の概要や目的、進め方、授業の目的と位置づけなどのオリエンテーション。T-ACT 入門。</p> <hr/> <p>第 2 回【4 月 25 日 未定】 [学生生活と T-ACT] 豊かな学生生活というのはどういうものか、筑波大学での学生生活を考える。自分にとっての T-ACT とは。</p> <hr/> <p>第 3 回【5 月 9 日 未定】 [今の自分と未来の自分] 過去・現在・未来の時制を用いて、なりたい自分と今の自分という理想と現実との比較を通して、自己分析を行う。</p> <hr/> <p>第 4 回【5 月 16 日 未定】 [地域社会と T-ACT] 自分が参加する地域コミュニティとは何か。自分ができることは何かを考えてみる。</p> <hr/> <p>第 5 回【5 月 23 日 未定】 [T-ACT の考案] ワークシートを基に、T-ACT として興味ある活動をメンバーに紹介し合い、最終発表会用の企画を選び出す。</p> <hr/> <p>第 6 回【5 月 30 日 未定】 [T-ACT の実践例] これまでの T-ACT での諸活動の紹介し、実践の仕方、参加方法、パートナーとの関わり方を考える。</p>		

	<p>第7回【6月6日 未定】 [実現への道 1] 選び出した企画案について、実現するための手順について各グループでそれぞれ検討する。</p> <hr/> <p>第8回【6月13日 未定】 [実現への道 2] 前回に引き続き、それぞれの企画の課題や問題点、進めていく上での検討点などについて解決策や工夫を話し合う。</p> <hr/> <p>第9回【6月20日 未定】 [T-ACT 案発表 1] グループ別に企画案のプレゼンテーションを行い、質疑応答を行う。</p> <hr/> <p>第10回【6月27日 未定】 [T-ACT 案発表 2] 前回に引き続き、グループ別に企画案のプレゼンテーションを行行い、質疑応答を行う。</p> <hr/> <p>第11回【7月4日 田中 博 生命環境系 ほか】 [期末試験]</p>
履修条件	秋学期(科目番号 1226091)と同一内容のため、重複履修は不可。人数が多い場合には受講調整あり。
成績評価方法	出席状況、課題の発表、レポート等により総合的に評価します。
授業外における学習方法	事前に内容を確認し、必要に応じて活動に関する情報を集め、関連する事柄に関する学習をすること。
教材・参考文献	必要に応じて授業中に紹介します。
オフィスアワー・連絡先	T-ACT 推進室 9:00~17:00 forum@t-act.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	待ちの姿勢・固い考えではなく、自ら学ぶ姿勢・自由で柔軟な発想で、新しい人と出会う体験を大切にしながら受講して頂きたいです。そして、この授業が、皆さんの学生生活がより実り多きものになるきっかけの一つになることを期待します。

授業科目名	障害学生とともに学ぶ共生キャンパス		
科目番号	1226031	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	春 AB 水 6
担当教員	竹田 一則, 半田 こづえ, 森 まゆ		
授業概要	障害のあるなしにかかわらず全ての学生が豊かな学びを共有できる共生キャンパス実現のために、障害に関する理解を深め、障害者への適切な支援に関する知識を得ることを目的とする。障害学生・支援学生にも授業に参加してもらい、障害学生の支援について具体的に考えるきっかけとしたい。		
備考	(ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター アクセシビリティ部門企画) 【受入上限数 150 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	3		
到達目標	共生キャンパスの考え方や障害のある学生が必要とする支援内容について列記できる。さらに、日常の配慮事項や一定程度の専門性を要する支援活動に対する問題意識を高め、一人ひとりが主体的に共生キャンパスの一員として貢献できるようにすることを目標とする。		
キーワード	共生キャンパス, 障害学生支援, 合理的配慮		
各回授業計画	<p>第 1 回【4 月 13 日 竹田一則 人間系】 [「障害」と「共生社会」] 本授業のガイダンスとして「障害」とは何かについて解説し、「共生社会」や「共生キャンパス」の在り方について考える。</p> <hr/> <p>第 2 回【4 月 20 日 名川勝 人間系】 [ボランティア活動とは何か] ボランティアの基本的な事項について確認し、大学という環境の中でこれを行う際に考えるべきことなどを述べる。</p> <hr/> <p>第 3 回【4 月 27 日 半田こづえ 人間系/ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター アクセシビリティ部門】 [視覚障害学生の理解と支援] 「見えない」(盲)・「見えにくい」(弱視) という状態を理解した上で、視覚障害学生のキャンパスライフに必要な支援機器や支援内容について解説する。</p> <hr/> <p>第 4 回【5 月 11 日 原島恒夫 人間系】 [聴覚障害学生の理解と支援] 聴覚障害の特性について概説し、大学で行われている主な支援方法 (手書き要約筆記・PC 要約筆記等の情報支援) を紹介する。</p> <hr/> <p>第 5 回【5 月 18 日 名川勝 人間系】 [運動・内部障害学生の理解と支援] 運動・内部障害学生について、障害の状態やニーズと時期に応じてどのような支援を行うか解説する。また関連して、キャンパスバリアフリー、就職支援、生活支援などについても述べる。</p> <hr/> <p>第 6 回【5 月 25 日 青木真純 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター アクセシビリティ部門】 [発達障害学生の理解と支援] 発達障害は見た目だけでは判断できず、様々な誤解を受ける可能性がある。発達障害とはどのような状態なのか、また学生生活を送る上でどのようなハンディキャップを有しているのかについて解説する。</p> <hr/> <p>第 7 回【6 月 1 日 石井映美 医学医療系・保健管理センター】 [保健管理センターと連携した支援:こころの問題] 障害学生のこころの問題や主な精神障害について学習し、保健管理センターと連携した支援や精神的危機への対応について考える。</p> <hr/> <p>第 8 回【6 月 8 日 青柳まゆみ 愛知教育大学障害児教育講座】 [当事者の立場から考える障害学生支援] 当事者の視点から障害学生支援の状況を紹介します。共生キャンパス実現のための課題について考える。</p>		

	<p>第9回【6月15日 澤江幸則 体育系】 [アダプテッドスポーツ] 障害者スポーツ・アダプテッドスポーツについて概説し、大学内外で行われている取り組みを具体的に紹介する。</p> <hr/> <p>第10回【6月22日 竹田一則 人間系】 [障害学生支援の理念と共生キャンパス実現の課題] より質の高い支援を目指した最新の取り組みを紹介し、障害学生支援と共生キャンパス実現の今後の課題を考える。</p> <hr/> <p>第11回【6月29日 竹田一則 人間系】 [期末試験] 筆記試験を行う。</p>
履修条件	秋学期と同一内容のため学期を重複しての受講は認めない。
成績評価方法	期末試験の成績と出席状況を中心に、総合的に評価する。
授業外における学習方法	共生キャンパス実現のための活動は、学内の様々な機会を通して学び体験することができる。本講義で得られた視点から、授業外においても問題意識を深めてほしい。
教材・参考文献	1. 指定教科書:鳥山由子・竹田一則(編)「障害学生支援入門 誰もが輝くキャンパスを」ジヤース教育新社
オフィスアワー・連絡先	takedak at human.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	知識としての理解にとどまらず、得た知識を日常生活やボランティア活動等で積極的に活かす姿勢を期待する。自由科目(特設)「障害学生支援技術」の受講や、障害学生支援活動への参加も検討されたい。

授業科目名	筑波大学特別講義 大学と学問		
科目番号	1226051	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	春 AB 水 6
担当教員	田中 マリア		
授業概要	<p>本学の学長をはじめとする経験豊かな講師陣が、大学と学問、あるいは学問と人生について広いテーマで講義を行う。本講義は、大学で学ぶべきことや自分の今後の生き方についてじっくりと考えてみる機会を受講生に提供するとともに、明確な目的意識をもって自律的に学習していくことができるように、大学生生活と学問への道案内をすることを目的とする。さらに、学長をはじめ本学に関係する優れた研究者が、自らの学問と人生体験を語ることにより、日本および世界において次世代の指導者となりうる有能な若者を育成する機会ともする。</p>		
備考	(教養教育機構企画)		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	<p>2,3 学長はじめ本学に関係する優れた研究者が、自らの学問と人生体験を語ることにより、大学で学ぶ意義や自分の今後の生き方をじっくり考える機会を提供する。 学習目的・学習動機の獲得・自律的な自己確立とキャリアプランづくり</p>		
到達目標	<p>新入生をはじめとする受講生が、大学生生活に慣れて、明確な目的意識を持って自律的に学習できるようになる素地を養う。</p>		
キーワード	学長講義, 大学生生活, 学問と人生, 研究とは, 筑波大学		
各回授業計画	<p>第1回【4月13日 永田恭介 筑波大学長】 [大学と学問] 科学と技術の進歩は、人類社会に大きな発展をもたらした。しかし、一方ではエネルギー・資源に関する問題、産業・経済に関わる問題、食料、人口構成、格差社会の問題などを生んだ。いずれの問題についても地球規模での認識と解決が必要である。基礎科学から創薬にまで繋がる研究に携わってきた経験と実感を交えて、これからの大学の役割と大学における学問について考える。</p> <hr/> <p>第2回【4月20日 丹呉 泰健 日本たばこ産業株式会社 取締役会長】 [人口問題など日本の課題] 21世紀の日本は、歴史上初めて人口減少社会となり、世界で最も高齢化の高い国となる。このように21世紀の日本には、多くの課題がある。これらの課題について説明し、大学生の皆さんに、どうすべきかを考えてもらいたいと思います。</p> <hr/> <p>第3回【4月27日 柳沢正史 筑波大学生命環境系 教授・筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構 (WPI-IIIS) 機構長】 [睡眠・覚醒の謎に挑む] 「なぜ眠らなければならないのか?」「そもそも眠気とは何か?」といった誰もが抱く疑問は未だに解明されていない。日米両国で最先端の研究を行ってきた経験を踏まえ、現在筑波大学で行っている睡眠・覚醒の根本的メカニズムの解明に関する研究について紹介する。</p> <hr/> <p>第4回【5月18日 三浦宏一 一般社団法人世界貿易センター東京 理事長】 [グローバルトレンズ・日本] 21世紀、グローバルの光と影の交錯の中、未来論と危機感が混在している。情報化は世界の相互理解を深めたが、局地紛争や民族・宗教等による対立や南北格差は拡大しつつある。その解決には人類の英知を結集した適切な対応が迫られている。国際化から世界化、更に地球化に向けての新たな地平が問われなければならない。トータルとしての文明を人間、社会、世界と歴史の中での検討と、思想・極論・実践と学問の関係の理解、改革を目指す。</p> <hr/> <p>第5回【5月25日 渡邊 信 筑波大学藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター長/特命教授】 [未来を創造する藻類バイオマス] 油脂作物、廃食用油、動物性油から製造されるバイオディーゼルは、現実的には燃料の既存需要のほんの僅かしか満たすことが出来ない。微細藻類は、燃料の世界的需要を満たす可能性を有する唯一の再生可能燃料資源と考えられている。微細藻類の1種、ボトリオコッカスは光合成を行い石油系オイルである炭化水素を生産する。またオーランチオキトリウムは従属栄養性藻類であるが、高価値の炭化水素を生産する。多種藻類バイオマス燃料化では水熱液化法を適用し、バイオ原油生産を可能とした。本講義では、これら藻類の高いオイル生産能力とそれを活かすための産業技術開発の展望を示す。</p>		

第6回【6月1日 内田伸子 十文字学園女子大学理事・特任教授・お茶の水女子大学名誉教授】
 [『子どものウソは「嘘」か? 肝心なのは問うのを止めないこと』]
 子どもも大人もウソをつく。子どものウソは人の思いの裏をかくような『嘘』なのだろうか?そもそも子どもは作偽の嘘をつけるのであろうか?これらの問いに答えるために、記憶、想起、想像、語りのメカニズムから検証する。心理学実験や観察を通して「嘘」という高次の虚構の創生に不可欠な psychological essentials を明らかにすることによって人間のこころの不思議を解き明かす。この検証の過程を支えているのは第一に、問いをもち、第二に、研究方法論を身につけ、第三に、探究し続けることである。

第7回【6月8日 田嶋 幸三 日本サッカー協会副会長】
 [世界を目指す日本サッカー]
 常に、どんな時も世界を意識し、世界ナンバーワンを目指して日本サッカー協会は活動を続けている。その具体的な内容を紹介し、フレッシュマンである筑波大学の後輩の皆さんに、常に世界を目指すことの重要性を伝えたい。

第8回【6月15日 蓮見 孝 札幌市立大学理事長・学長(筑波大学名誉教授)】
 [明日の社会をデザインする]
 日本社会は、成長期から成熟期へと大きな転換期を迎えており、次世代の担い手には、新たな夢を描き出す構想力が求められる。デザイン思考(Design Thinking)に立ち、これからの社会に向けてのビジョンや行動規範、知のあり方等について考えてみる。

第9回【6月22日 藤崎一郎 上智大学特別招聘教授・国際戦略顧問】
 [これからの日本とあなたたち]
 日本は、どういった国家になるかいま分かれ目にある。そしてどの途をとろうと世界との関わり合いはふえるだろう。みなさん個人個人もどの途を進まれるにせよ国際社会と関わり合いを持つだろう。それに備え、学生時代に何をしておいたらいいか、外交官としての個人的体験を踏まえお話ししてみたい。できるだけ一方的な授業でなく学生諸君とやりとりをしたい。

第10回【6月29日 山海嘉之 筑波大学システム情報系 教授・サイバニクス研究センター長】
 [最先端人支援技術【サイバニクス】による未来開拓最前線]
 サイバニクスは、疾患や加齢に伴い増加する脳・神経・筋系の疾患患者の機能改善を実現する世界初のロボット医療機器の研究開発・社会実装や「重介護ゼロ@社会」を実現する革新的サイバニクスシステムなど、人や社会に役立つ世界最先端の人支援テクノロジーとして展開されている。本授業では、サイバニクスによる未来開拓最前線について、様々な最新事例を交えて講義する。

履修条件	特にありません。
成績評価方法	開講回数の3分の2以上の出席必須。 合計4回のレポート(1000字程度)ならびに受講態度によって総合的に評価します。レポートは4回とも必ず提出してください。レポートの作成方法や提出の仕方については、第1回の授業において配布される資料を必ず確認すること。
授業外における学習方法	講演者の著作を幅広く読むこと
教材・参考文献	特にはありません。印刷資料が配布されたり、参考文献が紹介されたりすることがあります。
オフィスアワー・連絡先	
履修者へのメッセージ	筑波大学ならではの豪華な講師陣による講義です。

授業科目名	ワーク・ライフ学-男女共同参画とダイバーシティ-		
科目番号	1226011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	春 AB 木 6
担当教員	河野 禎之		
授業概要	産業構造が急速に変化し、人々の生活文化、家族のあり方や社会が変容する中、我々はどうのように仕事と生活を両立させていくべきなのか。個人や個人をとりまく人間関係、組織や地域社会では、どのような問題が生じているか。ワーク・ライフ・バランスの視点をういながら、現代の社会現象を「男女共同参画」「ダイバーシティ」をキーワードにその解明と解決に向けて学ぶ。具体的には、仕事や家庭、地域生活において、多様な生き方を受容し、自分らしい生活を実践できるよう、「働き方」や「生き方」を見つめ直すとともに、就職・結婚・出産・子育て・介護等のライフイベントを題材に、グループで意見交換を行いながら、生きる力、社会力を身につける。		
備考	(ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門、教養教育機構企画) 平成 24 年度までの「「仕事と生活」と男女共同参画~WLB を軸に未来予想図を描こう」及び平成 27 年度までの「ワーク・ライフ学 I -「仕事と生活」と男女共同参画-」に相当するため、これらの授業の履修者による重複履修は不可。 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	1,2,3 産業構造の急速な変化、家族のあり方や個人を取り巻く人間関係の変容する現代において、仕事と家事・育児・介護等の家庭役割を両立し、社会に生きる一人として、自らの人生を積極的に切り開くためには、そのための知識、経験、スキル、コミュニケーション力等、多様な「力」が必要です。ワーク・ライフ学では、こうしたスキルを得るために、「ワーク・ライフ・バランス」を軸に、現代社会の課題に対する考え方や視点を学びます。そして、グループで意見交換を行うことを通して「聴く・伝える」等、コミュニケーション力を育み、さらに講義題目に関連したテーマのミニレポートを作成しプレゼンテーションを行うことで、文章力や表現力を高めます。		
到達目標	1. 男女共同参画・ダイバーシティ、ワーク・ライフ・バランスが社会理念になった背景についての理解を深める。 2. 他者の多様な生き方、考え方を知り、それぞれの価値に気づく視点を得る。 3. ワーク・ライフ・バランスを視野に入れた将来設計に関し、自らの考えを確立することを目指す。 4. グループワークにより聴く力、伝える力を育む。		
キーワード	男女共同参画, ワーク・ライフ・バランス, ダイバーシティ		
各回授業計画	<p>第 1 回【4 月 14 日】 [ガイダンスおよび授業概要] ワーク・ライフ学を学ぶことの意義、授業全体の概要の説明、受講にあたっての注意点等について説明します。</p> <hr/> <p>第 2 回【4 月 21 日】 [ワーク・ライフ・バランスとは何か] 近年の社会経済構造の変化と共に、人々の働き方や生活のスタイルの変化を考察します。その上で、ワーク・ライフ・バランス概念を軸に、何が議論されているかを学びます。</p> <hr/> <p>第 3 回【4 月 28 日】 [ワーク・ライフ・バランスと男女共同参画] 近年の社会経済構造の変化と共に、人々の働き方や生活のスタイルの変化を考察します。その上で、ワーク・ライフ・バランス概念を軸に、とくに男女共同参画の点から考えていきます。</p> <hr/> <p>第 4 回【5 月 12 日】 [ワーク・ライフ・バランスとダイバーシティ] 近年の社会経済構造の変化と共に、人々の働き方や生活のスタイルの変化を考察します。その上で、とくに LGBT を含めたセクシュアル・マイノリティに関するダイバーシティの観点から考えていきます。</p> <hr/> <p>第 5 回【5 月 19 日】 [ワーク・ライフ・バランス施策の実際 1] 外部講師をお招きし、企業におけるワーク・ライフ・バランス施策の現状と将来展望について学びます。そして、経営戦略という視点から、「ワーク・ライフ・バランス」を理解します。</p> <hr/> <p>第 6 回【5 月 26 日】 [ワーク・ライフ・バランス施策の実際 2] 外部講師をお招きし、企業におけるワーク・ライフ・バランス施策の現状と将来展望について学びます。そして、経営戦略という視点から、「ワーク・ライフ・バランス」を理解します。</p>		

	<p>第7回【6月2日】 [多様化するライフコース/ワークスタイル] 外部講師をお招きし、近年の新たな事業活動のキー概念ともなりつつある社会貢献型事業活動を展開する企業や個人の事例を学びながら、多様な働き方の中で生き抜く力を養います。</p> <hr/> <p>第8回【6月9日】 [ワーク・ライフ・バランスの実践に向けて 1] これまでの授業を踏まえながら、現代社会のワーク・ライフ・バランスの施策の問題点や、我々のライフコースへの影響についてグループディスカッションを行い、プレゼンテーションとしてまとめます。</p> <hr/> <p>第9回【6月16日】 [ワーク・ライフ・バランスの実践に向けて 2] これまでの授業を踏まえながら、現代社会のワーク・ライフ・バランスの施策の問題点や、我々のライフコースへの影響についてグループディスカッションを行い、プレゼンテーションとしてまとめます。</p> <hr/> <p>第10回【6月23日】 [ワーク・ライフ・バランスの実践に向けて 3] グループディスカッションを通して得られた成果をプレゼンテーションとして発表するとともに、他のグループと積極的な意見交換を行い、さらに議論を深めます。</p> <hr/> <p>第11回【6月30日】 [ワーク・ライフ・バランスの実践に向けて 4] グループディスカッションを通して得られた成果をプレゼンテーションとして発表するとともに、他のグループと積極的な意見交換を行い、さらに議論を深めます。最後に、本授業を経て、自分の考えがどのように変化してきたのかを中心としたレポートを課します。</p>
履修条件	秋学期に開講予定の「ダイバーシティスタディーズ入門」を併せて受講することを推奨します。
成績評価方法	1. 出席状況:2/3以上の出席が必須です。 2. 授業態度・討論参加:積極的な姿勢を評価します。 3. 毎回のリアクション・ペーパーの内容、プレゼンテーション、レポートに基づいて総合的に評価します。課題に対する理解度、説明力、表現力を評価対象とします。
授業外における学習方法	ダイバーシティ部門で企画する各種事業への参加も、授業外の学習として認めます。プレゼンテーション作成のために授業外で積極的にコミュニケーションを図ることを推奨します。
教材・参考文献	教科書は特に定めません。必要に応じてプリントを配布します。
オフィスアワー・連絡先	木曜日昼休み(要事前連絡)
履修者へのメッセージ	幅広い興味と好奇心をもって積極的に意見交換に関わって下さい。遅刻、グループワークにおける非協力的な態度は評価に影響します。注:外部講師との調整により日程の入れ替えや内容の変更の可能性があります。

授業科目名	世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続リレー講義:社会基礎学 グローバル人材に不可欠な教養 I		
科目番号	1226151	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	春 AB 集中
担当教員	佐藤 忍, 野村 港二		
授業概要	<p>いま世界では、新興国の急成長、産業界や市場のボーダレス化、ICT 技術の進歩などにより、人材や情報、資金が国境を越えて行きかい、同時に国や都市・地域間の競争が激化しています。一方で少子高齢化や地球規模での環境問題、資源エネルギー問題など、世界を取り巻く様々なグローバルアジェンダに対処していくことも求められています。この時代を生き抜く学生は、「人・社会・国に尽くす、更には国際社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励み、一方でこの講義で説く『社会基礎学』の習得が必要不可欠と考えます。本リレー講義では、社会基礎学とは何かを探求し、全学群生を対象に、今後の大学生活で身に付けるべき知識、教養、想像力や構想力向上をサポートします。具体的には以下の6分野にプライオリティを置き、産業界・官界・政界のトップリーダーがリレー講義を実施、皆さんとともに考えます。1「グローバル化と日本のあり方」、2「政治・政策」、3「安全保障・憲法」、4「経済・産業」、5「資源・エネルギー」、6「世界/アジア」(順不同)</p>		
備考	(教養教育機構企画)(教育企画室企画) 【受入上限数 200 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	2,3		
到達目標	1 グローバル人材、2 政治・政策、3 経済・産業、4 資源・エネルギー、5 世界/アジア、の重点5分野を概ね理解する。		
キーワード	グローバル化, グローバル人材, 社会基礎学		
各回授業計画	<p>第1回【4月23日 徳永 保 筑波大学教授 (大学執行役員)、佐藤 忍 筑波大学教授 (教育企画室長)】 [導入講義 I] 【4月23日 門脇 直哉 JAPIC 常務理事】 [導入講義 II]</p> <hr/> <p>第2回【4月23日 吉村 麻央 石破茂衆議院議員 政策担当秘書, 三輪 恭之 森ビル (株) 都市政策企画室 (JAPIC 出向事業企画部部长), 門脇 直哉 JAPIC 常務理事, 徳永 保 筑波大学教授 (大学執行役員)、佐藤 忍 筑波大学教授 (教育企画室長)】 [パネルディスカッション] 第1部 グローバル化とは何か? グローバル化の中で日本は? 第2部 学生は何を学び、何を身につけるべきか?</p> <hr/> <p>第3回【5月21日 島崎 豊 丸紅 (株) 執行役員 秘書部長 兼 広報部長】 [1. 総合商社の活動内容 2. 少子高齢化とエネルギー問題にどう対応していくべきか]</p> <hr/> <p>第4回【5月21日 末松 広行 農林水産省 農村振興局長】 [日本の農林水産業]</p> <hr/> <p>第5回【6月4日 吉村 隆 ゴールドマン・サックス証券 (株) コンプライアンス部門統括 マネージングディレクター】 [現代の金融システム]</p> <hr/> <p>第6回【6月4日 江島 真也 (独) 国際協力機構 (JICA) 企画部 部長】 [途上国・新興国に対する日本の貢献~日本の政府開発援助を振り返る]</p> <hr/> <p>第7回【6月18日 太田 恒平 (株) ナビタイムジャパン 経路探索開発責任者 兼 交通コンサルティング事業 チーフエンジニア】 [交通・観光ビッグデータがもたらす変革]</p> <hr/> <p>第8回【6月18日 伊藤 宏 朝日新聞社 政治部 次長】 [日本政治の現状と課題]</p> <hr/> <p>第9回【6月25日 竹内 純子 NPO 法人国際環境経済研究所 主席研究員】 [地球環境戦略の新たな枠組み ~ParisCOP21 の歴史的合意を受けて~]</p>		

	<p>第10回【6月25日 竹内 純子 NPO 法人国際環境経済研究所 主席研究員, 山戸 昌子 トヨタ自動車(株) 環境部 企画室 室長, 松尾 剛彦 経済産業省電力・ガス取引監視等委員会 事務局長, 丸川 裕之 JAPIC 専務理事・事務局長】 [パネルディスカッション] これからの資源・エネルギー・環境戦略</p> <hr/> <p>第11回【7月1日】 期末試験</p>
履修条件	第1回授業日の13:00から行うオリエンテーションに必ず出席すること。
成績評価方法	出席及び期末試験の結果により評価する。なお、期末試験の方法等はオリエンテーションにおいて説明する。
授業外における学習方法	各講義で紹介する。
教材・参考文献	各講義で紹介する。
オフィスアワー・連絡先	
履修者へのメッセージ	各講義で紹介する。

授業科目名	世界の TSUKUBA で学ぶ		
科目番号	1226071	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	秋 AB 月 1
担当教員	大友貴史		
授業概要	グローバル化が急速に進む中で、本学は「国際性が日常化した大学環境の実現」並びに「知の世界拠点として世界と共生する大学」を目指している。本科目の目的は、第一に、本学の国際化の方向性と実情、並びに筑波大学と世界との関わりを知ると共に、筑波研究学園都市という特徴のある地域社会の中で学ぶことの意義を考えることにある。第二に、日本が置かれている国際的な環境と日本がこれまで世界で行ってきた数々の貢献を知ることにより、筑波大学において皆さんが今後どのような意識を持って学ぶかについて、あらためて考える機会を提供することである。このように、本授業は今後学生生活の方向性を定めるきっかけとしてだけでなく、卒業後の進路を考える上での材料を提供することを目標としている。		
備考	(教養教育機構企画) 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	2,3 経済・社会のグローバル化が急速に進む中で、「グローバル人材」と呼ばれる世界を舞台に活躍する人材が求められていると同時に、大学も世界的な競争の中で「国際化」が求められている。筑波大学は「開かれた大学」の建学の理念のもと、「国際性が日常化した大学環境の実現」と「知の世界拠点として世界と共生する大学」を目指している。 本科目では、筑波研究学園都市という特徴ある地域社会との関わりの中での筑波大学の国際化の取組を縦系に、グローバル社会の中で求められる人材像を横系にした講義・ディスカッションを通して、学生諸君が「国際化」と向き合い、自己研鑽を重ねていくかを考えるきっかけを与えることを目的とする。		
到達目標	本学の国際化の基本方針や現状を理解すると共に、「国際性が日常化した」キャンパスライフに積極的に参加する態度を身に付ける。また、国際的視野を持って、卒業後の進路を考えることができるようになる。		
キーワード	大学の国際化, 筑波研究学園都市, 産官学連携, グローバル人材, 海外経験・留学		
各回授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション/筑波大学における国際化の現状と課題 2. 筑波研究学園都市の研究機関との連携 3. 筑波大学と海外・国際機関との連携 4. 日本の世界貢献 5. 国際協力と筑波大学 6. ディスカッション (1) 7. 海外留学の意義 (1) 8. グローバル人材とは何か 9. 海外留学の意義 (2) 10. 筑波大学の海外における学術展開 11. ディスカッション (2) <hr/> <p>第 1 回【10 月 3 日 大友 貴史 人文社会系 人社 B808 (6512) , 森尾 貴広 国際室 本部棟低層 3 階 (6263)】 [イントロダクション&筑波大学における国際化の現状と課題] 授業の全体像、成績評価方法等の説明を行うと共に、本学の国際化の基本方針と取り組みの現状および課題について論ずる。</p> <hr/> <p>第 2 回【10 月 17 日 上原 健一 (有) つくばインキュベーションラボ TEL: 029-860-5188】 [筑波研究学園都市の研究機関との連携] 本学とつくば市内の主要な研究機関との産官学連携について紹介する。</p> <hr/> <p>第 3 回【10 月 24 日 河瀬 眞琴 生命環境系 生物・農林学系 G407 (6988)】 [筑波大学と海外・国際機関との連携] 国連等の国際機関や海外の機関との連携活動の紹介と国際機関での就職等について述べる。</p> <hr/> <p>第 4 回【10 月 31 日 芳賀 克彦 JICA 筑波 TEL:029-838-1111】 [相互依存と国際協力] 諸外国との相互依存関係の中で経済発展を遂げた日本の現状・今後の展望及び現在の経済的繁栄を維持・発展させるために一層求められる日本の国際化と国際協力について述べる。</p>		

	<p>第5回【11月8日(振替授業日) 芳賀 克彦 JICA 筑波】 [国際協力と筑波大学] 国際協力機構 (JICA) を中心とした政府開発援助 (ODA) の目的、経緯、事業の現状、課題と筑波大学との関わりについて述べる。</p> <hr/> <p>第6回【11月14日 大友 貴史 人文社会系 人社 B808 (6512), 森尾 貴広 国際室 本部棟低層 3階 (6263)】 [ディスカッション (1)] 「大学の国際化の意義」に関する各自のレポートを基にグループディスカッションと発表を行う。う。</p> <hr/> <p>第7回【11月21日 大友 貴史 人文社会系 人社 B808 (6512), 森尾 貴広 国際室 本部棟低層 3階 (6263)】 [海外留学の意義 (1)] グローバル人材に対する社会・産業界のニーズ、大学への期待と役割、政府・文部科学省の施策、本学の取り組みを紹介し、その意義について専門家による話題提供に基づき議論する。</p> <hr/> <p>第8回【12月5日 森尾 貴広 国際室 本部棟低層 3階 (6263) 話題提供者 廣瀬 武志 国際室】 [グローバル人材とは何か] 世間の関心とニーズが高まっている「グローバル人材」とはそもそも何かについて、「主体性」をキーワードに考察する。</p> <hr/> <p>第9回【12月12日 森尾 貴広 国際室 本部棟低層 3階 (6263) 話題提供者 畑澤 敏彦 国際教育交換協議会】 [海外留学の意義 (2)] 海外留学におけるリスク管理および異文化理解、海外留学の動機付けとしての海外ボランティア活動への参加の意義・魅力について論じる。</p> <hr/> <p>第10回【12月19日 森尾 貴広 国際室 本部棟低層 3階 (6263)】 [筑波大学の海外における学術展開] 本学の海外における教育研究、海外拠点活動の展開と展望について、北アフリカ地域を例に紹介する。</p> <hr/> <p>第11回【12月26日 大友 貴史 人社 B808 (6512), 森尾 貴広 国際室 本部棟低層 3階 (6263)】 [ディスカッション (2)] 「個人レベルにおける国際性を身につけることの意義」に関する各自のレポートを基にグループディスカッションと発表を行う。</p>
履修条件	特になし。
成績評価方法	(1) 出席:20%、 (2) 授業・ディスカッションへの貢献度 (発言、グループディスカッションの取りまとめなど):40%(10%x2回 (ディスカッション (1) および (2))+20% (その他の回))、 (3) レポート:40% (10%(ディスカッション (1))+10%(同 (2))+20%(最終レポート))
授業外における学習方法	「大学の国際化」「個人レベルで国際性を身につけること」に対する問題意識を持ち、授業で紹介する文献・資料等による情報収集と知識の獲得と、英語カフェ、留学生・外国人との交流イベント、海外留学説明会等の国際関連イベントへの参加による実践。
教材・参考文献	授業中および manaba にて適宜紹介します。
オフィスアワー・連絡先	事前にアポを取って下さい。 代表連絡先 森尾貴広 内線 6263, email: morio.takahiro.fu@u.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	本学は例えば学生の8人にひとりが留学生であるなど国際性を身近に感じる環境にあります。この授業で学んだことを参考に、ひとりひとりが国際交流の主役として実践されることを望みます。

授業科目名	心と体に安全で快適なキャンパス II 救命救急処置とファーストエイド		
科目番号	1226121	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	秋 AB 月 1
担当教員	久賀 圭祐		
授業概要	<p>学生生活でよく出会う身体の不調や症状、病気、捻挫や骨折などの外傷、温熱や化学物質による熱傷、環境要因による障害、中毒、感染症などをわかりやすく学ぶとともに、予防法や自分でも出来る応急処置について学習します。また AED の使用も含めた救命救急処置について、授業による知識だけでなく、マネキンや AED のトレーニングキットなどを十分に使った実習を行い実技を習得します。これで得たスキルは一生役立ちます。</p>		
備考	<p>(保健管理センター企画) 実技があり実技に使うトレーニングキットの数および教員の指導可能人数に限りがあるため、受講上限数を 40 名とする。 【受入上限数 40 名程度】</p>		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	<p>1. 大学生活への適応, 3. 自律的な自己確立とキャリアプラン作り 日常生活でよく出会う疾患や外傷などのファーストエイドや救命救急処置について、授業および救命救急の現場の声を聞き、トレーニングキットなどを十分に使った実習を行い、生涯にわたり役に立つ実技を習得する。</p>		
到達目標	よく出会う病気、外傷およびその応急処置について理解する。さらに心肺蘇生法、AED の使用などの救命救急処置のスキルを身につける。		
キーワード	応急処置, 救命救急, 救急室, 心肺蘇生, AED, 外傷, 中毒, 腹痛, 喘息, ドクターヘリ, ドクターカー		
各回授業計画	<p>第 1~8 回目までは講義、第 9~10 回目は心肺蘇生法の実習となります。</p> <p>第 1 回【10 月 3 日 下条信威 医学医療系】 [環境要因による障害 1] 熱中症、低体温症、凍傷、高山病、減圧症、など物理的な過度の刺激、あるいはその影響によって引き起こされる疾患と、それらに対する初期対応について解説する。</p> <hr/> <p>第 2 回【10 月 17 日 金子剛 医学医療系/保健管理センター】 [おなかの 119 番] 学生時代において遭遇しやすい腹部症状や一般的によく遭遇する腹部疾患について実例を挙げて学び、その初期対応や予防方法について解説する。</p> <hr/> <p>第 3 回【10 月 24 日 安部哲哉 医学医療系/保健管理センター】 [外傷・骨折・捻挫の応急処置・救急処置] 大学生活で起こりうる捻挫、骨折などの外傷の応急処置について講義する。特に学内で問題となっている自転車事故、スポーツ外傷・障害について予防と対処法について講義する。</p> <hr/> <p>第 4 回【10 月 31 日 坂本 透 医学医療系/保健管理センター】 [学生が遭遇する応急対応に必要な呼吸器疾患] 呼吸器系は、その機能が障害されると生命が脅かされる場合もある。学生などの若者で応急対応が必要となることのある呼吸器疾患には、気管支喘息、自然気胸、肺炎などがあるので、これらについて概説する。</p> <hr/> <p>第 5 回【11 月 8 日 (振替授業日) 安田貢/水戸医療センター 青山真司/高萩市消防本部】 [救命救急の現場から] 救急車・ドクターカー・ドクターヘリによる重症患者搬送、救命救急室の救急・救命の実際に日常携わっている医師・救命救急士が、救急の現場からの臨場感あふれる生の声を発信する。</p> <hr/> <p>第 6 回【11 月 14 日 久賀圭祐 医学医療系/保健管理センター】 [心臓突然死~AED] 日本では心臓突然死で 1 年に 3 万~5 万人が亡くなっているが、迅速な救命処置で救命できる。AED について、使用方法、有効性の実証、臨場感あふれる使用現場、使用されて救命された例、法律の問題を解説する。</p> <hr/> <p>第 7 回【11 月 21 日 井上貴昭 医学医療系】 [環境要因による障害 2] 中毒、化学薬品による熱傷、などによって引き起こされる病態について、予防、初期対応、病院ではどう治療するかを中心に解説する。</p>		

	<p>第 8 回【12 月 5 日 高橋伸二 医学医療系】 [心肺蘇生法] 心肺蘇生法の歴史と、実際のデータに基づいて 2010 年に改訂された最新の心肺蘇生法の実際と理論について解説する。</p> <hr/> <p>第 9 回【12 月 12 日 高橋伸二 医学医療系】 [心肺蘇生法の実習-1] 心肺蘇生用のマネキン、AED シミュレータなどのトレーニングキットを使って、少人数グループに分かれて、経験豊富なインストラクターによる指導、DVD メディアの活用により、「できるようになるまで」実習を行う。</p> <hr/> <p>第 10 回【12 月 19 日 山下創一郎 医学医療系】 [心肺蘇生法の実習-2] 心肺蘇生用のマネキン、AED シミュレータなどのトレーニングキットを使って、少人数グループに分かれて、経験豊富なインストラクターによる指導、DVD メディアの活用により、「できるようになるまで」実習を行う。</p> <hr/> <p>第 11 回【12 月 26 日 久賀圭祐 医学医療系/保健管理センター】 [期末試験] 期末試験では、講義で配布したレジメ、講義ノート、自習ノートなどの資料の持ち込みは可とします。</p>
履修条件	実技があり実技に使うトレーニングキットの数および教員の指導可能人数に限りがあるため、受講上限数を 40 名とします。
成績評価方法	出席状況、実習の状況、期末試験 (レジメなどの資料の持ち込みは可とします) を総合的に評価する。
授業外における学習方法	日赤、各地の消防署、筑波大学内などで随時開催している講習会に参加すれば、さらにスキルアップができる。
教材・参考文献	各講義で紹介する。必要に応じて各講義でレジメなどの資料を配付する。『DVD で学ぶ、カンタン!救急蘇生』(学研)
オフィスアワー・連絡先	保健管理センター (医学系学系棟 108 室) 木曜日 13:30-14:30 内線 2400(PHS 91625) kuga.keisuke.gp@u.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	心肺蘇生を体得することを真剣に考えている学生の受講を望みます。

授業科目名	知の探検法		
科目番号	1220011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	秋 AB 月 2
担当教員	宇陀 則彦, 辻 慶太		
授業概要	一流の研究者、一流のジャーナリスト、一流の作家は調べ物の楽しさを知っています。彼らは知の探検家なのです。知の探検に必要な道具はすべて図書館に揃っています。筑波大学附属図書館は最先端をいく図書館です。本科目では、知の探検に不可欠な情報探索ツールの使い方を重点的に学びます。		
備考	(知識開設) 知識情報・図書館学類学生の受講は認めない。(1220021)と同一内容のため、重複履修は不可。 【受入上限数 80 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	2 大学における勉強は、自律的かつ能動的で、高校のようにあれこれ指図されることはありません。勉強したいことがあれば好きなだけしてよいのです。けれども、好きなことを勉強してよい反面、勉強の仕方、調べ物の仕方は自分で工夫しなければなりません。一流の研究者、一流のジャーナリスト、一流の作家は調べ物の楽しさを知っています。彼らは知の探検家なのです。そして、探検の過程で彼らが最も頼りにするのは今も昔も本であり、また雑誌論文、新聞記事などです。これら知の探検に必要な道具はすべて図書館に揃っています。筑波大学附属図書館は国内最高・最先端であり、その資料はインターネットを通じて自宅で読んだり調べたりすることができます。本科目では、インターネット上の各種データベースといった知の探検に不可欠な情報探索ツールの使い方を重点的に学びます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートや論文のテーマに応じて適切な情報資源を選択できるようになること。 ・電子ジャーナルやデータベースから適切な文献を検索できるようになること。 ・レポートと論文が感想文とはどう違うのかを説明できること。 		
キーワード	文献検索, データベース利用法, 図書館利用法		
各回授業計画	<p>第 1 回【10 月 3 日 (月) 宇陀則彦 図書館情報メディア系】 [サーチエンジンを使って一般的な事項を調べる。]</p> <hr/> <p>第 2 回【10 月 17 日 (月) 宇陀則彦 図書館情報メディア系】 [ディスカバリサービスを使って総合的に調べる。]</p> <hr/> <p>第 3 回【10 月 24 日 (月) 松野涉 附属図書館】 [雑誌データベースを使って図書の探し方を学ぶ。]</p> <hr/> <p>第 4 回【10 月 31 日 (月) 渡邊朋子 附属図書館】 [国内論文の探し方を学ぶ。]</p> <hr/> <p>第 5 回【11 月 8 日 (火) (振替授業日) 兼松泰文 附属図書館】 [海外論文の探し方を学ぶ。]</p> <hr/> <p>第 6 回【11 月 14 日 (月) 嶋田晋 附属図書館】 [学術雑誌の探し方と電子ジャーナルの使い方を学ぶ。]</p> <hr/> <p>第 7 回【11 月 21 日 (月) 全員】 [これまで学んだ内容をもとに文献探索ゲームを行う。iPad も使う]</p> <hr/> <p>第 8 回【12 月 5 日 (月) 辻慶太 図書館情報メディア系】 [用語の意味、Web アーカイブ、専門情報の探し方を学ぶ。]</p> <hr/> <p>第 9 回【12 月 12 日 (月) 辻慶太 図書館情報メディア系】 [政府情報や公的機関のデータベースを知る。]</p> <hr/> <p>第 10 回【12 月 19 日 (月) 全員】 [これまで学んだ内容をもとに文献探索ゲームを行う。iPad も使う]</p> <hr/> <p>第 11 回【12 月 26 日 (月)】 予備</p>		
履修条件	知識情報・図書館学類学生の受講は認めない。秋学期 C モジュール (科目番号 1220 021) と同一内容のため、重複履修は不可。		
成績評価方法	各回の小レポート (20%)、文献探索ゲームと最終レポート (70%)、出席 (10%) 文献探索ゲーム 2 回を含む 8 回以上の出席が必要。なお、欠席届を提出しても出席扱いにはならない。		

授業外における 学習方法	調べものをするときは本科目で学んだことを活かす。
教材・参考文献	1. 「知の探検法」テキスト
オフィスア ワー・連絡先	宇陀 則彦 春(火5) 秋(木5) 7D210 uda at slis.tsukuba.ac.jp http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~uda/ 辻 慶太 水 12:00-13:00 7D512 keita at slis.tsukuba.ac.jp http://slis.sakura.ne.jp/
履修者へのメッ セージ	出席すれば単位がとれる科目ではありません。毎回宿題があります。楽な科目ではありませんが、文献探索がうまくなりたい人には必ず役に立ちます。

Course	Global career development		
Course No.	1290012	Credits	1.0Credits
Grade	1, 2Year	Timetable	FallAB Mon5
Instructor	Hiroya Igarashi, Hanako Suzuki		
Course Overview	This course is designed for both international students and Japanese students to explore their potential career by facilitating their understanding of self and culture and improving their intercultural communication skills. The course will be offered in English. As active participation in class is valued and group tasks are assigned throughout the course, students are expected to be able to communicate in English. However, those with limited English skills who are highly motivated to learn to communicate in English and with other students with diverse cultural backgrounds are welcome to register. Note: Only students who are present at the first class can register for this course.		
Remarks	Limited to 60 students. Lectures are conducted in English. CDP (ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター キャリアサポート部門企画)		
Course Type	class exercises		
Subject Category			
Level・Division			
Course Objectives	2 This course is designed for students to increase awareness on oneself and cultures, explore potential career, and acquire intercultural communication. This course is also designed for students to acquire ability to apply the knowledge acquired in classroom setting to outside of classroom, to reflect on yourself, and to respect others.		
Academic Goal	1. To increase awareness of oneself and potential career and obtain knowledge about cultures around the world. 2. To improve intercultural communication skills and will be able to negotiate with those from different cultures. 3. To acquire critical thinking skills, respect differences, and appreciate diversity.		
Course Key Words	career,development		
Course Schedule	<p>1. 【Oct. 3 Orientation: Hanako Suzuki】 Students will learn the outline of the course, expectations, and assignments will be explained, and students will practice talking in front of class by introducing themselves.</p> <hr/> <p>2. 【Oct. 17 Intercultural communication: Hanako Suzuki】 Students will learn about how culture can influence the views of self, emotions, and communication styles will be explained.</p> <hr/> <p>3. 【Oct. 24 Group work: Hanako Suzuki】 Students will raise awareness on career development. Students will be assigned to a group with which they will present the final presentation and will learn about the group-mates.</p> <hr/> <p>4. 【Oct 31 Self-reflection: Hanako Suzuki】 Students will reflect upon their past experiences and their transition from school to work world.</p> <hr/> <p>5. 【Nov. 8 From the past to the present: Hanako Suzuki】 Students will work on finding their core selves based on their reflections in the previous class.</p> <hr/> <p>6. 【Nov. 14 Mid-term presentation: Hanako Suzuki】 Each group will present the plans and structures of their final presentation and obtain feedback from classmates.</p> <hr/> <p>7. 【Nov. 21 "Key expressions" in various cultures: Hanako Suzuki】 Students will share "key expressions" used in their cultures and learn about how cultures may influence their values and perceptions.</p> <hr/> <p>8. 【Dec. 5 Career from present to the future: Hanako Suzuki】 A panelist will give a talk on her career in the international field.</p> <hr/> <p>9. 【Dec. 12 Designing my career: Hanako Suzuki】 Students will think about their career and future based on what they have learned about themselves and cultures and will map their actions for their college years and ahead.</p>		

	10. 【Dec. 19 Final presentation: Hanako Suzuki】 Students will present the final presentation in front of class.
Course Prerequisites	It is strongly recommended that students are present at the first class.
Grading Methods	50% final presentation; 20% mid-term presentation; 20% reflection notes; 10% class participation
Self-Directed Learning Method Outside the Classroom	Students are expected to apply the knowledge and skills learned in class to work on their final presentation with their group-mates outside of class.
Textbooks and Supplementary Materials	All the materials will be provided in class.
Office Hours and Contact Information	2-5pm on Tuesdays at International Student Center, or by appointment (suzuki.hanako.fn@u.tsukuba.ac.jp) Hanako Suzuki
Other (i.e. Expectations on Classroom Conduct and Decorum etc.)	It is expected that students actively participate in and outside class in order to maximize their cross-cultural learning opportunities and that students respect the differences in cultural backgrounds and language levels. Fluency in English is not required; however, students are expected to understand the lectures and be able to communicate with classmates in English. Those who are motivated to improve their communication skills in English and to learn about cultures around the world are welcome to register.

授業科目名	障害学生とともに学ぶ共生キャンパス		
科目番号	1226081	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	秋 AB 月 6
担当教員	竹田 一則, 森 まゆ, 半田 こづえ		
授業概要	障害のあるなしにかかわらず全ての学生が豊かな学びを共有できる共生キャンパス実現のために、障害に関する理解を深め、障害者への適切な支援に関する知識を得ることを目的とする。障害学生・支援学生にも授業に参加してもらい、障害学生の支援について具体的に考えるきっかけとしたい。		
備考	(ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター アクセシビリティ部門企画) 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	3		
到達目標	共生キャンパスの考え方、および障害のある学生が必要とする支援内容について列記できる。さらに、日常の配慮事項や一定程度の専門性を要する支援活動に対する問題意識を高め、一人ひとりが主体的に共生キャンパスの一員として貢献できるようにすることを目標とする。		
キーワード	共生キャンパス, 障害学生支援, 合理的配慮		
各回授業計画	<p>第 1 回【10 月 3 日 竹田一則 人間系】 [「障害」と「共生社会」] 本授業のガイダンスとして「障害」とは何かについて解説し、「共生社会」や「共生キャンパス」の在り方について考える。</p> <hr/> <p>第 2 回【10 月 17 日 名川勝 人間系】 [ボランティア活動とは何か] ボランティアの基本的な事項について確認し、大学という環境の中でこれを行う際に考えるべきことなどを述べる。</p> <hr/> <p>第 3 回【10 月 24 日 森まゆ 人間系/ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター アクセシビリティ部門】 [視覚障害学生の理解と支援] 「見えない」(盲)・「見えにくい」(弱視) という状態を理解した上で、視覚障害学生のキャンパスライフに必要な支援機器や支援内容について解説する。</p> <hr/> <p>第 4 回【10 月 31 日 加藤靖佳 人間系】 [聴覚障害学生の理解と支援] 聴覚障害の特性について概説し、大学で行われている主な支援方法 (手書き要約筆記・PC 要約筆記等の情報支援) を紹介する。</p> <hr/> <p>第 5 回【11 月 8 日 (振替授業日) 名川勝 人間系】 [運動・内部障害学生の理解と支援] 運動・内部障害学生について、障害の状態やニーズと時期に応じてどのような支援を行うか解説する。また関連して、キャンパスバリアフリー、就職支援、生活支援などについても述べる。</p> <hr/> <p>第 6 回【11 月 14 日 青木真純 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター アクセシビリティ部門】 [発達障害学生の理解と支援] 発達障害は見た目だけでは判断できず、様々な誤解を受ける可能性がある。発達障害とはどのような状態なのか、また学生生活を送る上でどのようなハンディキャップを有しているのかについて解説する。</p> <hr/> <p>第 7 回【11 月 21 日 太刀川弘和 医学医療系・保健管理センター】 [保健管理センターと連携した支援:こころの問題] 障害学生のこころの問題や主な精神障害について学習し、保健管理センターと連携した支援や精神的危機への対応について考える。</p> <hr/> <p>第 8 回【12 月 5 日 根本えり香 茨城県立つくば特別支援学校 (教諭)】 [当事者の立場から考える障害学生支援] 当事者の視点から障害学生支援の状況を紹介します。共生キャンパス実現のための課題について考える。</p>		

	<p>第9回【12月12日 澤江幸則 体育系】 [アダプテッドスポーツ] 障害者スポーツ・アダプテッドスポーツについて概説し、大学内外で行われている取り組みを具体的に紹介する。</p> <hr/> <p>第10回【12月19日 竹田一則 人間系】 [障害学生支援の理念と共生キャンパス実現の課題] より質の高い支援を目指した最新の取り組みを紹介し、障害学生支援と共生キャンパス実現の今後の課題を考える。</p> <hr/> <p>第11回【12月26日 竹田一則 人間系】 [期末試験] 筆記試験を行う。</p>
履修条件	春学期と同一内容のため、学期を重複しての受講は認めない。
成績評価方法	期末試験の成績と出席状況を中心に、総合的に評価する。
授業外における学習方法	共生キャンパス実現のための活動は、学内の様々な機会を通して学び体験することができる。本講義で得られた視点から、授業外においても問題意識を深めてほしい。
教材・参考文献	1. 指定教科書:鳥山由子・竹田一則(編)「障害学生支援入門 誰もが輝くキャンパスを」 ジアース教育新社
オフィスアワー・連絡先	takedak at human.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	知識としての理解にとどまらず、得た知識を日常生活やボランティア活動等で積極的に活かす姿勢を期待する。自由科目(特設)「障害学生支援技術」の受講や、障害学生支援活動への参加も検討されたい。

授業科目名	みんなで創ろう「つくばアクションプロジェクト」		
科目番号	1226091	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	秋 AB 月 6
担当教員	田中 博		
授業概要	自分の興味や関心を活かし、自らが主体的に関わりたいと思える活動を企画し、それを実現化するための方法について学ぶことを目的としている。そのため、講義の他にワークシートを用いた演習やグループワークなども行い、よりよい人間関係の構築もこの講義の狙いとなる。この授業を通して、皆さんの学生生活をより実り多きものにしていただきたい。		
備考	(学生生活支援室企画) 春学期 (1226041) と同一内容のため、重複履修は不可。 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	1,3 「大学生活をどのように過ごすか」。答えはもう見つかりましたか?学問、サークル、ボランティア、アルバイトなど様々な答えがあるでしょう。しかし、大学内では行われていない活動で参加したいことがある人や、漠然としているけれど「こんなことをしてみたい」という、アイデアを密かにお持ちの人も多いのではないのでしょうか。 この授業では、自分の興味や関心を活かし、自らが主体的に関わりたいと思えるような活動を企画し、それを実現させるための方法について学ぶことを目的としています。そのため、講義の他に、演習やグループワークを行います。自分一人では実現困難と思われるアイデアでも、他の学群や学類の人たちと話す中で新たな可能性が見つかるでしょう。 なお、つくばアクションプロジェクト (T-ACT) とは、平成 20 年度から本格的に始動している、学生の皆さんの様々な自発的活動に応えるための、筑波大学独自のプロジェクトです。この授業で考案された企画は、T-ACT として、他の学生や教職員と一緒に実現していくことができます。活動の内容は学問的なものだけではなく、日々の生活に密接に関係した内容やボランティア活動まで、様々な内容を想定しています。		
到達目標	より豊かな学生生活とするために、自分と向き合うこと、学類・学群を超えた幅広い人間関係の構築を図ります。また、新しい活動に対する積極的な参加力や体験力、協調して活動をするためのコミュニケーション力、人に働きかけて統率する力、自らの考えを活動として実現する企画力などを培うことを目標としています。		
キーワード	自発的活動、参加力・体験力・コミュニケーション力・統率力・企画力		
各回授業計画	<p>第 1 回【10 月 3 日 田中 博 生命環境系 ほか】 [オリエンテーション] T-ACT プログラムの全体の概要や目的、進め方、授業の目的と位置づけなどのオリエンテーション。T-ACT 入門。</p> <hr/> <p>第 2 回【10 月 17 日 未定】 [学生生活と T-ACT] 豊かな学生生活というのはどういうものか、筑波大学での学生生活を考える。自分にとっての T-ACT とは。</p> <hr/> <p>第 3 回【10 月 24 日 未定】 [今の自分と未来の自分] 過去・現在・未来の時制を用いて、なりたい自分と今の自分という理想と現実との比較を通して、自己分析を行う。</p> <hr/> <p>第 4 回【10 月 31 日 未定】 [地域社会と T-ACT] 自分が参加する地域コミュニティとは何か。自分ができることは何かを考えてみる。</p> <hr/> <p>第 5 回【11 月 8 日 (授業振替日) 未定】 [T-ACT の考案] ワークシートを基に、T-ACT として興味ある活動をメンバーに紹介し合い、最終発表会用の企画を選び出す。</p> <hr/> <p>第 6 回【11 月 14 日 未定】 [T-ACT の実践例] これまでの T-ACT での諸活動の紹介し、実践の仕方、参加方法、パートナーとの関わり方を考える。</p>		

	<p>第7回【11月21日 未定】 [実現への道 1] 選び出した企画案について、実現するための手順について各グループでそれぞれ検討する。</p> <hr/> <p>第8回【12月5日 未定】 [実現への道 2] 前回到引き続き、それぞれの企画の課題や問題点、進めていく上での検討点などについて解決策や工夫を話し合う。</p> <hr/> <p>第9回【12月12日 未定】 [T-ACT 案発表 1] グループ別に企画案のプレゼンテーションを行い、質疑応答をする。</p> <hr/> <p>第10回【12月19日 未定】 [T-ACT 案発表 2] 前回到引き続き、グループ別に企画案のプレゼンテーションを行い、質疑応答をする。</p> <hr/> <p>第11回【12月26日 田中 博 生命環境系 ほか】 [期末試験]</p>
履修条件	春学期(科目番号 1226041)と同一内容のため、重複履修は不可。
成績評価方法	出席状況、課題の発表、レポート等により総合的に評価します。
授業外における学習方法	事前に内容を確認し、必要に応じて活動に関する情報を集め、関連する事柄に関する学習をすること。
教材・参考文献	必要に応じて授業中に紹介します。
オフィスアワー・連絡先	T-ACT 推進室 9:00~17:00 forum@t-act.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	待ちの姿勢・固い考えではなく、自ら学ぶ姿勢・自由で柔軟な発想で、新しい人と出会う体験を大切にしながら受講して頂きたいです。そして、この授業が、皆さんの学生生活がより実り多きものになるきっかけの一つになることを期待します。

授業科目名	キャリアデザインⅠ 未来の自分		
科目番号	1226131	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	秋 AB 月 6
担当教員	五十嵐 浩也		
授業概要	個々の学生が、人生のなかでも重要な期間である大学での生活を、積極的かつ有意義に過ごし、その後の人生設計(キャリアデザイン)の準備に不可欠の基礎作りをすることを目的とする。特に、自分の人生の主人公は自分であることを再認識し、「自己に気付く力」を発展させること、および社会の中に生きていることを再確認し、社会と関わる力、変化する社会の中で主体的に生きるために必要な「変化対応力」を発展させることを目指す。		
備考	(ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター キャリアサポート部門企画) CDP 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	1.2.3 個々の学生が、人生のなかでも重要な期間である大学での生活を、積極的かつ有意義に過ごし、その後の人生設計(キャリアデザイン)の準備に不可欠の基礎作りをすることを目的とする。		
到達目標	1 未来の自分は現在とこれからの自分の積み重ねであることを意識しながら、限りある大学生活を充実させていくための準備をすること。 2 他の学群・学類の学生や教職員、社会人とのコミュニケーションを刺激としながら、大学生活の目標を明確にし、キャリアデザインの力を発展させること。		
キーワード	キャリア形成支援, キャリアポートフォリオ (CARIO)		
各回授業計画	<p>第 1 回【10 月 3 日 キャリアサポート部門】 [オリエンテーション] 自分について考え、キャリアデザインを行う心の準備をする。</p> <hr/> <p>第 2 回【10 月 17 日 キャリアサポート部門】 [大学生活を振り返る] 高校から大学への移行期を振り返って現在の自分について考える。</p> <hr/> <p>第 3 回【10 月 24 日 キャリアサポート部門】 [興味領域の点検] VPI(職業興味検査)の結果レビューを通じて、興味のある職業領域という視点で、自己理解を深めるとともに、社会に眼を向ける。</p> <hr/> <p>第 4 回【10 月 31 日 キャリアサポート部門】 [自分らしさの点検] SGE(自己成長エゴグラム)の結果レビューを通じて、日常生活における自分らしさという視点で、自己理解を深める。</p> <hr/> <p>第 5 回【11 月 14 日 キャリアサポート部門】 [現在の自分、未来の自分] キャリア、キャリアデザインとは何か、今後どんな知識・経験の積み重ねが必要なのかを考える。</p> <hr/> <p>第 6 回【11 月 21 日 キャリアサポート部門】 [専門領域を活かすキャリア] 今後の大学生活でできることを最大限に活かす意味を考え、価値観の重要性、情報収集の必要性を学ぶ。</p> <hr/> <p>第 7 回【11 月 26 日 キャリアサポート部門】*授業日注意 [社会人インタビュー調査 1] 未来の自分を考える上で援助資源となる社会人の方々(OB・OG)を多数お招きし、オトナとのコミュニケーションを体験する。 第 7 回・第 8 回は 11 月 26 日(土)の 13:00~17:00 に行う。出席できるよう予定を調整しておくこと。</p> <hr/> <p>第 8 回【11 月 26 日 キャリアサポート部門】*授業日注意 [社会人インタビュー調査 2] 未来の自分を考えるうえで援助資源となる社会人の方々(OB・OG)を多数お招きし、オトナとのコミュニケーションを体験する。 第 7 回・第 8 回は 11 月 26 日(土)の 13:00~17:00 に行う。出席できるよう予定を調整しておくこと。</p>		

	<p>第9回【12月5日 キャリアサポート部門】 [インタビュー調査発表] インタビュー結果の共有を通じて、情報のまとめ能力とプレゼンテーション能力を身につける。</p> <hr/> <p>第10回【12月12日 キャリアサポート部門】 [上級生になる準備と課題] 授業を振り返ってまとめ、上級生になるための準備と課題について確認する。</p> <hr/> <p>第11回(レポート提出)</p>
履修条件	なし。
成績評価方法	出席(重視)と毎回の提出物、最終回に提出するレポートによる総合評価とする。
授業外における学習方法	毎回、次回までの宿題(ワークシートの記入)を課す。
教材・参考文献	1. キャリアポートフォリオ(CARIO)およびCARIOの各種ワークシート。
オフィスアワー・連絡先	五十嵐浩也 igarashi.hiroya.fw@u.tsukuba.ac.jp ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター キャリアサポート部門(第一エリア学生プラザ2F) 事前連絡にて随時対応。
履修者へのメッセージ	毎回の授業はグループワークを中心に行いますので、所属学類の異なる学生と話し、考えの異同を知ることができる授業です。グループワークが円滑に進むよう、そして他人に迷惑をかける行為をしないよう行動することを前提に、積極的な交流を期待します。

授業科目名	世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続リレー講義:社会基礎学 グローバル人材に不可欠な教養 II		
科目番号	1226161	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	秋 AB 集中
担当教員	佐藤 忍, 五十嵐 浩也		
授業概要	<p>いま世界では、新興国の急成長、産業界や市場のボーダレス化、ICT 技術の進歩などにより、人材や情報、資金が国境を越えて行きかい、同時に国や都市・地域間の競争が激化しています。一方で少子高齢化や地球規模での環境問題、資源エネルギー問題など、世界を取り巻く様々なグローバルアジェンダに対処していくことも求められています。この時代を生き抜く学生は、「人・社会・国に尽くす、更には国際社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励み、一方でこの講義で説く『社会基礎学』の習得が必要不可欠と考えます。本リレー講義では、社会基礎学とは何かを探求し、全学群生を対象に、今後の大学生活で身に付けるべき知識、教養、想像力や構想力向上をサポートします。具体的には以下の 6 分野にプライオリティを置き、産業界・官界・政界のトップリーダーがリレー講義を実施、皆さんとともに考えます。1「グローバル化と日本のあり方」、2「政治・政策」、3「安全保障・憲法」、4「経済・産業」、5「資源・エネルギー」、6「世界/アジア」(順不同)</p>		
備考	(教養教育機構企画)(教育企画室企画) 【受入上限数 200 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	2,3		
到達目標	1 グローバル人材、2 政治・政策、3 経済・産業、4 資源・エネルギー、5 世界/アジア、の重点 5 分野を概ね理解する。		
キーワード	グローバル化, グローバル人材, 社会基礎学		
各回授業計画	<p>第 1 回【10 月 15 日 徳永 保 筑波大学教授 (大学執行役員), 佐藤 忍 筑波大学教授 (教育企画室長)】 [導入講義 I] 【10 月 15 日 丸川 裕之 JAPIC 専務理事・事務局長】 [導入講義 II]</p> <hr/> <p>第 2 回【10 月 15 日 進藤 秀夫 東北大学 理事 産学連携担当, 永野 真紀 (株) 日立製作所 電力・インフラシステムグループ 経営企画本部経営戦略部 部長代理, 丸川 裕之 JAPIC 専務理事・事務局長, 徳永 保 筑波大学教授 (大学執行役員), 佐藤 忍 筑波大学教授 (教育企画室長)】 [パネルディスカッション] 第 1 部 グローバル化とは何か? グローバル化の中で日本は? 第 2 部 学生は何を学び、何を身に付けるべきか?</p> <hr/> <p>第 3 回【10 月 29 日 太田 誠 21 世紀政策研究所 事務局長】 [北東アジアの国際関係と産業界の機能]</p> <hr/> <p>第 4 回【10 月 29 日 野田由美子 PwC パートナー、PPP・インフラ部門アジア太平洋地区代表、都市ソリューションセンター長】 [都市のソリューション輸出]</p> <hr/> <p>第 5 回【11 月 19 日 佐藤 博恒 新日鉄住金 (株) 常務執行役員 人事労政・業務プロセス改革推進管掌】 [企業経営の現状・課題と戦略]</p> <hr/> <p>第 6 回【11 月 19 日 高橋 正巳 Uber Japan(株) 執行役員社長】 [Uber が示すシェアリングエコノミーの可能性]</p> <hr/> <p>第 7 回【12 月 3 日 岡部 央 (一社) 共同通信社 編集局 次長】 [日本経済の展望と課題]</p> <hr/> <p>第 8 回【12 月 3 日 鈴木 敦夫 防衛省 防衛政策局 次長】 [日本の安全保障環境と防衛政策]</p> <hr/> <p>第 9 回【12 月 17 日 中原 敦 国土交通省 道路局 総務課長】 [我が国が直面する構造改革と社会資本整備]</p>		

	<p>第 10 回【12 月 17 日 中原 敦 国土交通省 道路局 総務課長, 平石 和明 (株) 三菱総合研究所 政策・公共部門 副部門長, 川手 康司 みずほ銀行 産業調査部 次長, 門脇 直哉 JAPIC 常務理事】 [パネルディスカッション] 社会資本整備と構造改革から見た我が国の成長戦略</p> <hr/> <p>第 11 回【12 月 24 日】 [期末試験]</p>
履修条件	第 1 回授業日の 13:00 から行うオリエンテーションに必ず出席すること。
成績評価方法	出席及び期末試験の結果により評価する。なお、期末試験の方法等はオリエンテーションにおいて説明する。
授業外における学習方法	各講義で紹介する。
教材・参考文献	各講義で紹介する。
オフィスアワー・連絡先	
履修者へのメッセージ	各講義で紹介する。

授業科目名	知の探検法		
科目番号	1220021	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	秋 C 月 1,2
担当教員	宇陀 則彦, 辻 慶太		
授業概要	一流の研究者、一流のジャーナリスト、一流の作家は調べ物の楽しさを知っています。彼らは知の探検家なのです。知の探検に必要な道具はすべて図書館に揃っています。筑波大学附属図書館は最先端をいく図書館です。本科目では、知の探検に不可欠な情報探索ツールの使い方を重点的に学びます。		
備考	(知識開設) 知識情報・図書館学類学生の受講は認めない。(1220011)と同一内容のため、重複履修は不可。 【受入上限数 80 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	2 大学における勉強は、自律的かつ能動的で、高校のようにあれこれ指図されることはありません。勉強したいことがあれば好きなだけしてよいのです。けれども、好きなことを勉強してよい反面、勉強の仕方、調べ物の仕方は自分で工夫しなければなりません。一流の研究者、一流のジャーナリスト、一流の作家は調べ物の楽しさを知っています。彼らは知の探検家なのです。そして、探検の過程で彼らが最も頼りにするのは今も昔も本であり、また雑誌論文、新聞記事などです。これら知の探検に必要な道具はすべて図書館に揃っています。筑波大学附属図書館は国内最高・最先端であり、その資料はインターネットを通じて自宅で読んだり調べたりすることができます。本科目では、インターネット上の各種データベースといった知の探検に不可欠な情報探索ツールの使い方を重点的に学びます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートや論文のテーマに応じて適切な情報資源を選択できるようになること。 ・電子ジャーナルやデータベースから適切な文献を検索できるようになること。 ・レポートと論文が感想文とはどう違うのかを説明できること。 		
キーワード	文献検索, データベース利用法, 図書館利用法		
各回授業計画	<p>第 1 回【1 月 17 日 (振替授業日)(火)1 限 宇陀則彦 図書館情報メディア系】 [サーチエンジンを使って一般的な事項を調べる。]</p> <hr/> <p>第 2 回【1 月 17 日 (振替授業日)(火)2 限 宇陀則彦 図書館情報メディア系】 [ディスカバリサービスを使って総合的に調べる。]</p> <hr/> <p>第 3 回【1 月 23 日 (月)1 限 松野涉 附属図書館】 [雑誌データベースを使って図書の探し方を学ぶ。]</p> <hr/> <p>第 4 回【1 月 23 日 (月)2 限 渡邊朋子 附属図書館】 [国内論文の探し方を学ぶ。]</p> <hr/> <p>第 5 回【1 月 30 日 (月)1 限 兼松泰文 附属図書館】 [海外論文の探し方を学ぶ。]</p> <hr/> <p>第 6 回【1 月 30 日 (月)2 限 嶋田晋 附属図書館】 [学術雑誌の探し方と電子ジャーナルの使い方を学ぶ。]</p> <hr/> <p>第 7 回【2 月 6 日 (月)1 限 全員】 [これまで学んだ内容をもとに文献探索ゲームを行う。iPad も使う]</p> <hr/> <p>第 8 回【2 月 6 日 (月)2 限 辻慶太 図書館情報メディア系】 [用語の意味、Web アーカイブ、専門情報の探し方を学ぶ。]</p> <hr/> <p>第 9 回【2 月 13 日 (月)1 限 全員】 [これまで学んだ内容をもとに文献探索ゲームを行う。iPad も使う]</p> <hr/> <p>第 10 回【2 月 13 日 (月)2 限 辻慶太 図書館情報メディア系】 [政府情報や公的機関のデータベースを知る。]</p> <hr/> <p>第 11 回期末試験は実施しない。</p>		
履修条件	知識情報・図書館学類学生の受講は認めない。秋学期 AB モジュール (科目番号 1220 011) と同一内容のため、重複履修は不可。		
成績評価方法	各回の小レポート (20%)、文献探索ゲームと最終レポート (70%)、出席 (10%) 文献探索ゲーム 2 回を含む 8 回以上の出席が必要。なお、欠席届を提出しても出席扱いにはならない。		

授業外における 学習方法	調べものをするときは本科目で学んだことを活かす。
教材・参考文献	1. 「知の探検法」テキスト
オフィスア ワー・連絡先	宇陀 則彦 春(火5) 秋(木5) 7D210 uda at slis.tsukuba.ac.jp http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~uda/ 辻 慶太 水 12:00-13:00 7D512 keita at slis.tsukuba.ac.jp http://slis.sakura.ne.jp/
履修者へのメッ セージ	出席すれば単位がとれる科目ではありません。毎回宿題があります。楽な科目ではありませんが、文献探索がうまくなりたい人には必ず役に立ちます。

授業科目名	筑波大学と嘉納治五郎～逆らわずして勝つ～		
科目番号	1224011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	秋 C 月 1,2
担当教員	真田 久		
授業概要	東京高等師範学校の校長を 23 年半も務めた嘉納治五郎は、柔道の創設・普及はもちろん、教育改革や留学生教育、そして日本のスポーツの推進などに尽力した。また、アジア人初の IOC 委員として、世界を駆け回り、オリンピック・ムーブメントの推進にも貢献した。嘉納治五郎の幅広い行動と理念について学ぶとともに、筑波大学に流れる嘉納のレガシー（遺産）を見いだす。		
備考	(体育開設) 【受入上限数 150 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	1 嘉納治五郎の生き様と業績を通してグローバル人材のモデルを学ぶ。 筑波大学と嘉納治五郎との関係を知り、自身の行動にレガシーとして実践する。		
到達目標	嘉納校長が長く勤めた大学に学ぶことの意義を自覚し、進取の気性を持ちつつ、「自他共栄」の心を身につける。		
キーワード	東京高師, オリンピック, 教育改革, 柔道, 自他共栄		
各回授業計画	<p>第 1 回【1 月 17 日 (振替授業日) 和田浩一 フェリス女学院】 [クーベルタンと嘉納] クーベルタンが求めた新たな IOC 委員は、教育改革に熱心な人物であり、嘉納はまさに適切な人物であった。両者の交流を探る</p> <hr/> <p>第 2 回【1 月 17 日 (振替授業日) 和田浩一 フェリス女学院】 [オリンピック・ムーブメントの推進] 1940 年のオリンピック競技会の日本 (東京) 開催に尽力した嘉納。招致のための行動と理念とは</p> <hr/> <p>第 3 回【1 月 23 日 真田 久 体育系】 [人間・嘉納治五郎] (東京) 高師校長を 23 年半勤めた嘉納治五郎、彼と留学生や生徒との交流を通して嘉納の人となりについて概観する。</p> <hr/> <p>第 4 回【1 月 23 日 真田 久 体育系】 [体育科の創設] 嘉納は 1915 年に東京高等師範学校に「体育科」を設置した。これは今日の学校体育の基礎となる。その理念と内容とは。?</p> <hr/> <p>第 5 回【1 月 30 日 大谷 奨 人間系】 [教育改革の足跡] (東京) 高師校長に就任するや、嘉納は師範教育や中等教育の改革を試みた。その精神は今日の教育改革にも通じる。</p> <hr/> <p>第 6 回【1 月 30 日 伊藤純郎 人文社会系】 [大学への昇格運動と宣揚歌] 嘉納は思い悩んだ末、東京高師の大学への昇格をめざして活動した。昇格運動の中で作成されたのが宣揚歌であった。</p> <hr/> <p>第 7 回【2 月 6 日 増地 克之 体育系】 [柔術から柔道へ] 嘉納は伝統的な柔術から講道館柔道を作り上げた。そのねらいはどこにあったのだろうか。</p> <hr/> <p>第 8 回【2 月 6 日 山口 香 体育系】 [女子の柔道と教育] 1890 年代から女子に柔道も許可するなど欧米の教育と比較しても先駆的であった。女子柔道に託す嘉納の思いとは何か。</p> <hr/> <p>第 9 回【2 月 13 日 真田 久 体育系】 [留学生教育] 嘉納は中国から 8000 人も留学生を受け入れた。留学生にどのように接し、何を伝えようとしたのだろうか?</p>		

	<p>第 10 回【2 月 13 日 真田 久 体育系】 [期末テスト] 嘉納先生が著した「精力善用・自他共栄」「一世化育」の思想とはどのようなものなのか、総合的に学ぶ。</p>
履修条件	1 年生優先
成績評価方法	出席回数 2/3 以上の受講者に、出席票に記載するリアクションペーパー (50%)、レポート (50%) により総合的に評価する。
授業外における学習方法	嘉納治五郎に関する文献を図書館等で探し、読んでおくこと。講道館の史料室を期間中に各自で見学すること。
教材・参考文献	生誕 150 周年記念実行委員会編『気概と行動の教育者 嘉納治五郎』筑波大学出版会、2011 年
オフィスアワー・連絡先	月曜 16:30-17:30 オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること sanada at tai-iku.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	筑波大学に嘉納治五郎の精神が流れていることを自覚しつつ、日々の生活に活かすこと。